



第 46 回 JSiSE 全国大会終了報告

担当者： 全国大会委員会 委員長 小尻 智子（関西大学）

2021 年の教育システム情報学会全国大会を、9 月 1 日(水)から 3 日(金)の期間、オンラインで開催いたしました。本大会は実行委員長の松本慎平先生をはじめとする広島工業大学の先生方、および中国支部の先生方に運営していただきました。当日の運営にご尽力いただきました現地実行委員会の皆様に、大会までの様々な準備をしていただきました大会委員会の皆様に心より感謝申し上げます。また、シンポジウムやプレカンファレンス、企画セッションなどの企画をオーガナイズして大会を盛り上げてくださった皆様、ご登壇いただきました皆様、座長をお引き受けいただきました皆様、そして大会に参加いただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

大会委員会では、大会を参加者の皆様のネットワーキングの場にしたいという思いから、対面で実施する可能性をぎりぎりまで模索してまいりました。感染防止対策の負担を軽減することを目的に、メインイベントを初日にまとめて対面の会場数を一部屋にし、密にならないように 500 名が収容できる大きな会場を確保しました。残念ながらコロナの感染が想定以上に広がってしまい、会場も閉鎖されることになったことから、8 月初旬にオンラインのみでの開催へと舵をきることになりました。Face-to-face で議論できなくなったのは残念ですが、セッション時の企業の広告動画の配信など、オンライン開催の利点を生かしたサービスもいくつか提供できるようになり、昨年よりは充実した大会になったのではと感じています。それらのサービスの中には学会が対面開催となった際にも活用できそうなものもあります。対面で開催できるようになりましたら、オンライン開催の経験をふまえ、より充実した大会にしたいと思っています。

さて、本大会のテーマは昨年に引き続き、「学びのサステイナブル化を支える教育システム技術」に焦点をあてるものとなっています。このテーマのもと開催された大会企画シンポジウムでは、国立教育政策研究所の白水始先生、京都大学の緒方広明先生、山口大学の鷹岡亮先生、広島大学の平嶋宗先生にご登壇いただきました。広島大学の林雄介先生のコーディネート、大阪大学の村上正行先生の司会のもと、GIGA スクール構想などの政策を踏まえながら、ポストコロナ時代に向けた学びのデジタルトランスフォーメーションについての課題とその解決方法について議論していただきました。それぞれの先生方の立場から示唆に富んだご発言も多く、興味深い議論となりました。本シンポジウム以外でもデジタルトランスフォーメーションを扱った企画セッションが開催されており、時節柄大会テーマに関する関心の高さが感じられるプログラムとなりました。来年度も引き続きこのテーマについて考えていければと思っています。

最後に、来年の全国大会は、北信越支部の皆様に運営をお願いすることになりました。来年こそは皆様と face-to-face でお会いし、おいしいお酒と食事を食べながら熱い議論ができることを信じて、関係者一同準備に努めたいと思っています。



第 46 回全国大会奨励賞審査結果

担当者： 大会奨励賞審査委員会

大会奨励賞は、教育システム情報学および関連分野における学問の発展を奨励するため、その貢献が顕著である新進の研究者に贈呈するものです。受賞時に本学会の会員（入会申請中を含む）であって、40歳を越えていない、または、本学会入会時から10年を経過していない方が対象となります。また発表論文の第一著者であり発表時において登壇者であること、直近の過去2回の大会でこの賞を受賞していないことも条件となります。

大会奨励賞審査委員会により論文審査・発表審査を行い、本大会の審査対象論文 61 件（口頭発表の部：44 件、インタラクティブ発表の部：17 件）から、以下の論文の各第一著者を大会奨励賞に選定いたしました。

（以下は講演番号、発表題目、著者（○は受賞者）、所属の順）

<口頭発表の部>

F5-2 視線・セマンティックスウェアな教材と学習分析の初期検討

○奥津暁夫，林佑樹，瀬田和久 【大阪府立大学】

F6-3 学習者のパフォーマンスを高精度に予測するDeep-IRT

○堤瑛美子(1)，植野真臣(2) 【(1)電気通信大学大学院，(2)電気通信大学】

F6-4 web調べ学習における学習シナリオ再構築支援の評価

○森下夏暉(1)，柏原昭博(1)，太田光一(2)，長谷川忍(2) 【(1)電気通信大学大学院，(2)北陸先端科学技術大学院大学】

<インタラクティブ発表の部>

P1-15 読書経験をリソースとしたポートフォリオシステムの設計と開発—bはbookのb—

○平岡齊士(1)，小村道昭(2) 【(1)熊本大学，(2)アルベッジ】

以上 4 件



学生研究発表会優秀発表者の学生特別セッション参加報告

担当者： 人材育成委員会

本学会は若手研究者の育成に力を入れており、学生研究発表会の優秀発表者と地区代表者に全国大会で発表いただく機会として「学生特別セッション」を設けています。

昨年度の学生研究発表会は全国8地区において開催され、優秀発表賞／優秀ポスター賞として計28名が選ばれました。そして、そのうちの12名が2021年度全国大会の学生特別セッション（学生研究発表会の論文が大会論文集に再掲）で発表しました。昨年度の大会に引き続き、新型コロナウイルスの影響で全国大会がオンライン開催となり、学生特別セッションはWeb会議システムを使って実施されました。

学生特別セッション発表者には、「全国大会優待」として全国大会参加費と論文掲載費（学生特別セッション分）が免除されます。

以下に、学生特別セッション発表者の参加報告を掲載します。

優秀発表者としてお招きいただき、貴重な機会をいただけたことに感謝しております。一般セッションと併せて参加させていただいたということもあり、多くの方々に研究について知っていただき、意見をいただけたことは非常に有意義な経験でした。研究経験が浅い身としては、発表当日に至る準備も含め、学ぶべき点が多く見つけましたが、自分の研究の可能性を皆様に感じていただけたのであれば幸いです。何より、自分を研究者の一人として、皆様が耳を傾けてくださったこと、意見を交わしてくださったことを大変嬉しく思いました。今回示した可能性を可能性のまま終わらせないよう、一層励んで参ります。

（大阪府立大学 学部4年 奥津 暁夫）

この度は、全国大会で発表させていただける機会を頂きありがとうございました。インタラクティブ発表では、様々な先生方より大変貴重なご意見、ご指摘をいただくことができました。また、私の研究に興味を持っていただき、ご意見、ご質問を頂いた方にも感謝申し上げます。今回得ることができた経験を今後に活かし、研究に取り組んでいきたいと思っております。最後になりましたが、本大会の運営の方を始め、本大会でお世話になった皆様に御礼申し上げます。

（龍谷大学大学院 修士1年 鏡山 虹介）

この度は全国大会への参加という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。オンラインでのインタラクティブ発表ということで難しい部分もありましたが良い経験になりました。発表を聞きに来て下さった方々に関しましては、発表を最後まで聞いて下さり感謝申し上げます。その中でも様々な知見を持つ学生さんや先生方から複数の質問を頂いたことで、自分の研究を見つめ直す機会になりました。現在のコロナ禍においてはオンライン講義の展望に興味を持って下さっている方も多く、ご期待に沿えるような成果を出したいと感じました。今回の経験を活かし、今後の研究活動により一層邁進したいと考えています。

（広島大学大学院 修士1年 河口 祐毅）

この度は全国大会の参加という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。オンラインでの開催となりましたが、全国の先生方からの様々なお意見、ご指摘をいただき、自身の研究の強みや今後の課題に改めて気づかされた貴重な機会となりました。また、様々なお意見、ご指摘をいただく中で、自身の研究に対するモチベーション向上につながりました。今後は、今回の全国大会で得られたことを、自身の研究に活かしていけるよう取り組んでいきたいと思います。最後に、このような素晴らしい機会をくださった大会運営の方々や今大会にむけてお世話になった先生方に厚く御礼申し上げます。

(京都教育大学大学院 修士2年 近藤 竜生)

この度は、コロナ禍で対面での開催が厳しい状況の中、全国大会での発表という貴重な機会をリモート開催という形で頂戴し、本当に有り難うございました。様々な分野で活躍されている先生方から多様な視点でご意見を伺うことができ、今後の課題について深く考えるきっかけとなりました。特に、地域活性化についての意見を交わすことができたことは今後の研究に繋げることが出来る有意義な学びの時間となりました。このような環境をご用意してくださった本大会に関わる皆様に感謝申し上げます。

(熊本県立大学 総合管理学部 4年 古田 とわ)

学生研究発表会に引き続き全国大会という大きな場所で、研究の更なる発展につながる貴重な機会を頂きまして、ありがとうございました。発表の質疑応答を通して様々な意見を頂戴することで、研究に対する幅広い視点や新たな課題を発見する手がかりを得ることができました。また、ポジティブな意見も頂けたことから意義のある研究活動を行なえていることが再認識できました。今回の学びと経験を生かし研究活動により一層、邁進していきたいと思います。最後に、指導教員をはじめ、今大会でお世話になった方々に厚く御礼を申し上げます。

(高知大学大学院 修士1年 森 雅史)

この度、学生特別セッションに参加しました。このような貴重な経験が得られる機会を設けて頂きありがとうございます。全国大会ということもあり、自身の研究に関係ある発表以外にも、多くの興味を引かれる題材があり楽しい3日間でした。学生特別セッションのインタラクティブ発表では、ポイントを押さえた説明を行う良い経験になりました。また、聞きに来てくださった色々な方と十二分に意見交換や議論ができたこと、議論した方々の研究も聞けたりと、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の参加により得られたことは、今後、自身の研究に対して更なる意欲に拍車がかかります。改めて、関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

(広島市立大学 修士1年 森田 博人)

学生研究特別セッションでの発表機会をいただき、ありがとうございました。聴講者の皆様から多様な視点でコメントをいただくことができ、貴重な経験となりました。ポスター発表という形式は初めてだったので緊張しましたが、じっくりと対話ができ、今後の研究につながるものとなりました。また、私の研究が面白い、という感想をいただけたのがとても嬉しく、励みになりました。これからより一層、研究活動に取り組んでいきたいと思えるような内容でした。

(長岡技術科学大学 学部4年 渡邊 怜)

人材育成委員会では、学生研究発表会、全国大会学生特別セッションを継続していくとともに、今後も若手育成を活性化させる企画を検討していきます。



「ラーニングイノベーショングランプリ 2021」審査結果発表

担当者： 産学連携委員会 委員長 松浦 健二（徳島大学）

JSiSE が共催しているラーニングイノベーショングランプリ 2021（LIGP2021）について、二次審査（最終審査）が行われ、9月21日に審査結果が発表されました。審査結果は、以下の通りとなりました。

■最優秀ラーニングイノベーション賞（ジンジャーアップ賞）

- ・チーム戦術学習および浸透のためのイメトレ強化 WEB 環境
徳島大学 チームスポーツチーム

■優秀ラーニングイノベーション賞

- ・コロナ禍における臨地実習の代替となる教育方法の検討
神戸大学 神戸大学医学部附属病院看護部
- ・キットビルド概念マップを利用した映像講義学習における命題説明順序に基づく再視聴推薦に関する研究
広島大学 学習工学研究室 KB 班

■奨励賞

- ・遠隔では困難とされる造形芸術（美術科）実技教育の実現と教授法の確立
ーパンデミック下でも世界のアート教育を持続可能とするためにー
共立女子大学 文芸学部／香川大学 創造工学部
文芸学部 谷田貝研究室／創造工学部 米谷研究室
- ・Learning Analytics のための学習・メンタリング履歴収集基盤の構築
高知工科大学 教育情報工学研究室

5月25日に応募受付を開始し、8月12日の締切りまでに33件の応募がありました。これらについて、産業界の9名の審査委員が審査を行い、各賞を選定しています。8月12日～8月23日におこなわれた一次審査では、上位10チームが二次審査へ選出されました。二次審査は、5分間のプレゼンテーション動画による発表で行われました。審査は、【1】産業界から見た独創性・斬新性（20点満点）と【2】社会的価値（a: 教育・学習に与えるインパクト（10点満点）、b: 発想スケールの大きさ（10点満点）、c: 実用化された際の波及効果（10点満点））の各観点で採点（50点満点）し、審査結果に基づいた得点集計により9月21日に各賞が発表されました。

10月11日～22日に開催されるオンライン展示会「ラーニングイノベーション2021」（主催：日経新聞社、日経BP、共催：日本イーラーニングコンソシアム、マイクロラーニングコンソシアム）のセミナーで審査講評が予定されています。

ラーニングイノベーション2021は、<https://expo.nikkeibp.co.jp/hc/online/> をご覧ください。

ラーニングイノベーショングランプリは、学术界での学習・教育におけるラーニングテクノロジーに関する研究成果やその芽生え期の研究を産業界が評価する、年に一度のコンペティションです。大学等の研究は、普段アカデミックな評価を受ける機会が多いのですが、本イベントでは産業界も普段目を向けていないような研究や、産業界から見て価値のある潜在的な研究も評価されます。応募対象は、高等教育機関（大学・大学院・高等専門学校等）の研究室（チーム）です。来年も開催いたしますので、皆さま奮ってご応募ください。

本グランプリの詳細及び各受賞者の応募内容は、<https://ligp.gingerapp.co.jp> をご覧ください。

【開催概要】

主催：マイクロラーニングコンソシアム（mLC）

共催：教育システム情報学会（JSiSE）、日本イーラーニングコンソシアム（eLC）

協力：日経 BP、ジンジャーアップ（公式サイト）

運営：ラーニングイノベーショングランプリ実行委員会

プラチナスポンサー：ジンジャーアップ

ゴールドスポンサー：イーラーニング、サイコムブレインズ、デジタル・ナレッジ、ユームテクノロジージャパン、WARK

【審査委員等】

■審査委員

綾部 貴淑 : mLC/KIYO ラーニング株式会社 ※審査委員長

井手 啓人 : 株式会社ジンジャーアップ

鎌田 純子 : 株式会社ボイジャー

杉本 隆一郎 : アドビシステムズ株式会社

鈴木 晴之 : 株式会社 NHK エデュケーショナル

中嶋 竜一 : 株式会社デジタル・ナレッジ

長瀬 昭彦 : 株式会社 WARK

橋本 賢一 : 株式会社富士通ラーニングメディア

前川 英之 : アルー株式会社

■実行委員

加藤 憲治 : mLC/日本イーラーニングコンソシアム ※実行委員長

川口 泰司 : mLC/サイコム・ブレインズ株式会社

前田 宏 : mLC/株式会社ジンジャーアップ

越智 洋司 : JSiSE/近畿大学

東本 崇仁 : JSiSE/東京工芸大学

西端 律子 : JSiSE/畿央大学

米谷 雄介 : JSiSE/香川大学



第5回研究会講演募集

担当者： 光原 弘幸，佐々木 整，三石 大，高木 正則，鷹野 孝典(研究会委員会)

■テーマ：

教育 DX と実世界指向学習環境／一般

■開催日時：

2022年1月8日(土)

■開催場所：

オンライン開催 (Zoom を使用)

■発表申込締切：

2021年11月11日(木)

■原稿提出締切：

2021年12月2日(木)

■趣旨：

本年度第5回研究会は「教育 DX と実世界指向学習環境／一般」のテーマで実施いたします。

現代の様々な新技術は教育学習環境を大きく変えようとしています。例えば、携帯情報端末や高速無線通信の技術により、世界中の様々な教育コンテンツをいつでもどこでも学べるようになり、国や地域を越えた協調学習も可能になりました。さらに、存在感を有して知的に振る舞うロボット、身の回りの様々なモノをコンピューティングの対象とする IoT、実世界と仮想世界を融合した学習環境を提供する MR/VR/AR など、新しい教育学習環境を切り拓く技術が次々と社会に浸透しています。

また、昨年からは世界的なコロナ禍の影響で、教育学習環境のオンライン化が一気に加速し、教育現場における DX (デジタルトランスフォーメーション) への関心が急速に高まっています。このような学び方や教え方のパラダイムシフトの必要性や可能性を実感する一方で、実際にその場に訪れ、人やモノと接することでしか得られない学びを提供する実世界指向の教育学習環境の重要性に改めて気づかされるきっかけともなっています。すなわち、今後のニューノーマル時代を見据え、オンライン環境を活用しつつ、学習体験を最大化するための実世界指向の教育学習環境をどのようにデザインし、これを実現していくかは、教育システム情報学の分野において活発に議論されるべきアジェンダの一つと言えるでしょう。

こうした教育学習環境の急速な変化を踏まえ、第5回研究会では、「教育 DX と実世界指向学習環境」について、そのための教授設計も含め、システム・基礎技術の開発、実践、ならびに、新しい教育・学習

手法に関する幅広い研究発表を募集し、共に考える議論の場としたいと考えています。なお、本テーマに関わらず幅広く一般の研究発表につきましても併せて募集しますので、多くの皆様からのご発表のお申込みをお待ちしております。

■発表時間等：

発表時間は 25 分（発表 17 分，質疑 7 分，入れ替え 1 分）を予定しております。

■発表申込および研究会への参加方法

2021 年度研究会より，研究発表および研究会参加には，研究報告の年間購読（4,000 円/年）または各回の研究報告の購入（1,000 円/回）が必要となります。ただし，聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。

Zoom 開催の場合のアクセス先は，申込受付メールに送信されるメールに記載してあります。

詳しくは https://www.jsise.org/society/committee/2021/CFP_5th.html をご覧ください。

■研究報告執筆フォーマット：

研究報告執筆要領：<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>

研究報告見本：<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>

研究報告ひな形：<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>

オンライン講演申込・原稿投稿方法：<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■お問い合わせ先：

高木 正則（岩手県立大学，第 5 回研究会担当委員）

E-mail: [jsise-sig-5th\[at mark\]googlegroups.com](mailto:jsise-sig-5th[at mark]googlegroups.com)

（[at mark]の部分は，半角の「@」に変えて下さい）



第4回研究会開催案内

担当者： 長谷川 忍， 柏原 昭博， 小尻 智子， 曾我 真人， 松浦 健二(研究会委員会)

■テーマ： 身体的・認知的スキルに関わる支援技術／一般

■開催日時： 2021年11月13日(土)

■開催場所： オンライン開催 (Zoom を使用)

■趣旨：

本年度第4回研究会は「身体的・認知的スキルに関わる支援技術／一般」のテーマで実施いたします。

数学，物理，英文法などの形式知は，記号で記述でき，記号を通して万人が正解を共有可能であるといえます。それに対して，動作や技能，スポーツ，芸術などに代表される身体的スキルや，経験知やメタ認知など多くの経験を積んだ結果として獲得される認知的スキルは，記号での表現が難しい場合が多いことが特徴として挙げられます。このため，正解をあらかじめ記号としてシステムの中に入れておくという手法を適用することが難しく，それらの学習支援には，従来とは異なった手法を提案することが必要となります。

今回の研究会のテーマとして，正解をあらかじめ形式知として表現することが困難な上記の学習対象に対して，学習者の状態に応じた適応的な支援を実現する手法を中心に取扱いたいと思います。そのような学習対象のモデリングや分析，新しい支援方法の提案，支援環境の構築事例，評価法の提案，実践や評価の結果などに関するご発表について一緒にご議論できればと考えております。また，テーマに関わらず幅広く一般の研究発表もごございますので，奮ってご参加ください。

■発表申込締切： 締切済み

■原稿提出締切： 2021年10月14日(木)

■発表時間等：

発表時間は25分（発表17分，質疑7分，入れ替え1分）を予定しております。

■研究会への参加方法：

2021年度研究会より、研究発表および研究会参加には、研究報告の年間購読（4,000円/年）または各回の研究報告の購入（1,000円/回）が必要となります。ただし、聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。

Zoom開催の場合のアクセス先は、申込受付メールに送信されるメールに記載してあります。

○発表者

原稿提出は、下記「申込者ログイン」よりお願いします。

また、事前参加申込（研究報告の購入）は10月15日9時に開始します。

開始時刻以降に、下記「申込者ログイン」から手続きしてください。

○聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は、「申込者ログイン」での手続きは行わず、下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください。

○上記以外の参加者

事前参加申込（研究報告の購入）は10月15日9時に開始します。

開始時刻以降に、下記「申込者ログイン」から手続きしてください。

申込者ログイン：<https://iap-jp.org/jsise/course1/login.php>

研究会への参加と研究報告の購入・閲覧：<https://www.jsise.org/participate.html>

執筆要領などについては以下のページをご確認ください。

研究報告執筆要領：<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>

研究報告見本：<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>

研究報告ひな形：<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>

オンライン講演申込・原稿投稿方法：<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■お問い合わせ先：

長谷川 忍（北陸先端科学技術大学院大学、第4回研究会担当委員）

E-mail: jsise-kenkyu-4th@googlegroups.com



学生研究発表会発表募集（第1報）

担当者： 人材育成委員会

今年度も学生研究発表会を開催する予定です。開催方式を含め、スケジュールの最新情報ならびに申込み方法は、今後、学会ウェブページにて更新していきます。皆様の積極的な参加・発表をお待ちしております。全国大会との連携企画も検討しております。

申込み期限は1月下旬、発表原稿提出は2月はじめを予定しております。



2023 年度発刊 特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会 委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「次世代の人材を育成するために変革する教育システム」(予定)

論文投稿締切：2022年6月1日(水) (予定)

2023年4月1日 発行 (予定)

COVID-19の影響により、各高等教育機関でのオンライン授業、BYODが広く展開されるなどデジタル技術の活用が促進され、新たなカリキュラムや学習のあり方、学習環境の革新に向けて、教育手法が一層多様化していく中で、そうした時代に対応すべく教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)が謳われています。ポストコロナを見据えた「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。そうした社会システムの実現に向けて、数理的推論やデータ分析力を含むリテラシーや、論理思考力、規範的判断力をベースに社会システムを構想・設計する力を持つ人材が求められています。また、現在、大学入学共通テストへの「情報」の出題が検討される中、専門分野を問わず、誰でも数理・データサイエンス、AI活用の素養を身につけられる教育システムが必要となっています。本特集号では、このような状況下での次世代の人材を育成するために変革する教育システムにフォーカスします。

1. 対象分野

Society5.0の実現のためにベースとなるSDGsでは、地球規模の課題解決に取り組み、社会に貢献できる人材を育てることが社会的使命となっています。農業・工業・医療等、あらゆる幅広い分野において、レジリエントな社会の実現に向けた価値観を育むDX(デジタル・トランスフォーメーション)が期待されます。今後のSociety5.0の発展を見据え、初等・中等から高等教育機関におけるAI教育、情報教育等に加え、リカレント教育も含めた社会の教育発展に寄与する先行的な取り組みに注目します。情報教育(デジタルリテラシー教育、IoTを利活用したサービスデザインの教育、教育の枠組み設計等)、また、地域活性化に向けた産学連携・産学官連携も含めた人材育成支援の取り組み等に関する発表を広く募集いたします。

2. 論文種別

すべての種別(一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報)の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には、以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2022年3月22日(火))で発表を行った方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2022年6月1日(水) (予定)
採録通知予定： 2022年12月初旬まで (予定)
学会誌 掲載： 学会誌Vol. 40, No. 2, 2023年4月1日発行 (予定)

本特集号と同一テーマの研究会「特集論文研究会」を開催します。是非、ご発表・ご参加ください。詳細は、今後の最新の開催案内(<https://www.jsise.org/society/committee.html>)をご覧ください。

特集論文研究会： 2022年3月22日(火)
会 場： オンライン開催 (方式：Zoom による遠隔会議システムの利用を予定)
発表申込 締切： 2022年1月下旬 (予定)
原稿提出 締切： 2022年2月上旬 (予定)

5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田 和久(大阪府立大学)
副委員長： 村上 正行(大阪大学)
筆頭幹事： 後藤田 中(香川大学)
幹 事： 高木正則(岩手県立大学)， 田中孝治(金沢工業大学)，
山崎 治(千葉工業大学)
幹事補佐： 近藤 伸彦(東京都立大学)， 津森伸一(聖隷クリストファー大学)，
山元 翔(近畿大学)
委 員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全 般： 後藤田 中(香川大学) E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp
Web投稿： 編集事務局 電話： 03-5389-6492 E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19
株式会社国際文献社 長澤氏・山田氏・祁氏



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>）Vol.2 への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。投稿後、7 か月までには、採録の可否を決定・通知する予定ですので、短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。

- 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ）, 実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ）, システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ）, ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります（著者照会は 1 回のみ）。
 - 評価項目は、Originality（新規性）、Usefulness（有用性）、Reliability（信頼性）、Presentation（明瞭性）の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。



2021 年度 功労賞

担当者： 顕彰委員会 委員長 不破 泰（信州大学）

教育システム情報学会では、教育システム情報学に関する学会の諸活動に対して、著しい功労のあった会員・名誉会員・元会員に贈呈しております（原則として年度あたり 2 名以内）。本年度は 1 名の方に功労賞を授与いたしました。

功労賞・・・竹内 章 様



竹内章先生は、1997 年より 4 年間評議員、2001 年から 14 年間理事、2015 年から 4 年間顧問として通算 22 年にもわたり本学会の役員を歴任されました。また、2005 年から 2 年間は本学会の副会長も務めていただき、教育システム情報学会の運営に貢献されました。

研究面では、長年にわたって、人工知能技術を基盤とした知的学習支援に関する研究に取り組みられました。高度個別教育を実現する知的学習支援システムの有用性に早くから着目され、そのフレームワークや要素技術、ヒューマン・マシン・コミュニケーションの研究に携わってこられました。また、発見的学習環境や協調的学習環境等の新しい学習環境の研究に取り組みられるとともに、さまざまな学習領域を対象とした知的学習支援システムを提案され、国内外で数多くの研究業績を挙げてこられました。これらの研究業績は、教育システム情報学の発展に寄与されました。

以上の多大なる功労に感謝し、学会理事会において満場一致で功労賞に選出されました。



2021 年度研究会開催スケジュール

担当者： 研究会委員会

2021 年度の年間スケジュールは下記の通りです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	申込締切	原稿締切
第 1 回	DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野における ICT 活用の高度化／一般	終了	オンライン開催	終了	終了
第 2 回	ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般	終了	オンライン開催	終了	終了
第 3 回	対面・オンライン授業支援／一般	終了	オンライン開催	終了	終了
第 4 回	身体的・認知的スキルに関わる支援技術／一般	11 月 13 日(土)	オンライン開催	終了	10 月 14 日(木)
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習環境／一般	2022 年 1 月 8 日(土)	オンライン開催	11 月 11 日(木)	12 月 2 日(木)
第 6 回	Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践	2022 年 3 月 21 日(月)	オンライン開催	2022 年 1 月 27 日(木)	2022 年 2 月 17 日(木)
特集	次世代の人材を育成するため変革する教育システム	2022 年 3 月 22 日(火)	オンライン開催	2022 年 1 月 27 日(木)	2022 年 2 月 17 日(木)

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望

会員番号 (お分かりであれば) :

お名前 :

所属 :

連絡先 e メールアドレス :

=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

関東支部より活動報告

第3回 リサーチ・コ・コ・コモンズ 開催のお知らせ

担当者： 教育システム情報学会 関東支部

関東支部では、“連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント”「第3回 リサーチ・コ・コ・コモンズ」を開催いたします。このイベントは学生の皆さまに自身の研究の魅力を再発見していただくための企画です。

大学の研究者、企業でご活躍の方々や学生との議論を通じて、自分でも気付いていなかった研究の魅力を再発見してみませんか？

開催日時：11月27日（土）10:30～17:00(予定)

場所： オンライン（変更となりました）

対象： 他大学の方々との交流を通じて自身の研究を見つめ直したい学生

※ 関東・東北地区以外の学生の方の参加も大歓迎です。

※ 聴講はどなたでも可能です。

参加費： 無料

<プログラム>

第1部：ベテラン研究者・企業研究者からのメッセージ

基調講演： 仲林 清 先生（千葉工業大学）

講演： 高野 泰臣 様（株式会社インフラトップ／千歳科学技術大学）

米川 孝宏 様（BRAIN SIGNAL 株式会社 CEO）

第2部：魅力 Aware / Share / Deeper セッション

研究紹介

自身の研究の魅力を参加者に伝えよう

伝え方は自由（PowerPoint・ポスター・口頭のみ）中間発表などで使ったものを流用してもOK！

参加者とのディスカッション

大学の研究者や企業でご活躍の方々との建設的な議論を通じて、自分でも気付いていなかった研究の魅力を再発見しよう

発表・聴講をご希望の方は、11/12(金)までに下記 URL よりご登録下さい。

発表をご希望の方： <https://bit.ly/rcococo2021>

聴講をご希望の方： <https://bit.ly/rcococo2021-audit>

関西支部より活動報告

関西支部共催「第17回情報教育合同研究会」開催&発表募集のお知らせ

担当者： 教育システム情報学会 関西支部

1. テーマ 創造社会を支える情報教育～小・中学校で学んだ情報教育のバトンは情報Iに～
2. 日時 【メインプログラム】令和3(2021)年11月20日(土) 10:00～17:00
【自由企画】研究会前日までの約1か月間の自由日程
3. 会場 情報教育合同研究会バーチャル会場 (URL <http://www.el-labo.jp/cis/>)
※10月1日(金) OPEN (予定)
4. 日程(予定)
【ワークショップ】(複数セッション同時開催) 10:00～11:50
(昼休憩)
【研究発表】(複数会場同時開催) 13:00～14:00
【全体会】
講演Ⅰ (講師未定)
講演Ⅱ 国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部研究開発課 教育課程調査官
(併)文部科学省 初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室 教科調査官
参事官(高等学校担当)付産業教育振興室 教科調査官
田崎 丈晴 先生
【情報交換会】(バーチャル会場にて)
5. 参加費 無料(当日の資料はバーチャル会場で配布します)
6. 参加申込 10月中旬頃配布予定の開催案内(第2報)に申込の詳細が掲載されます。
バーチャル会場 (URL <http://www.el-labo.jp/cis/>) にも同様の内容を掲載します。

7. 募集内容

自由企画の募集～新たな企画のお誘い～ ※会場 (Zoom) は事務局で用意します。

研究会の約1か月前から研究会前日までの間(任意の日程)で行う、Zoom等を利用した自由企画を募集します。自由企画の参加者募集については、バーチャル会場 (URL <http://www.el-labo.jp/cis/>) で随時告知いたします。

下記の要領でお申込みください。

1. 申込方法 電子メール (jkgk21@sonoda-u.ac.jp) でお申し込みください
2. 申込必要項目 (1)自由企画のタイトル(2)運営者(名前・所属)(3)内容(200～240字程度)
(4)定員
3. 申込締切日 令和3年10月6日(水)

ワークショップの募集 ※会場（Zoom）は事務局で用意します。

「プログラミング教育」または「ICT環境を活用した模擬授業」に関するワークショップの運営を募集します。下記の要領でお申込みください。

1. 申込方法 電子メール（jkgk21@sonoda-u.ac.jp）でお申し込みください
2. 申込必要項目 (1)ワークショップ名(2)運営者（名前・所属）(3)内容（200～240字程度）
(4)定員
3. 申込締切日 令和3年10月6日（水）
4. 原稿締切日 令和3年11月6日（土）

研究発表の募集 ※会場（Zoom）は事務局で用意します。

「プログラミング教育」または「遠隔授業のデザイン」に関する研究発表を募集します（1発表15分）。下記の要領でお申込みください。

1. 申込方法 電子メール（jkgk21@sonoda-u.ac.jp）でお申し込みください
2. 申込必要項目 (1)発表タイトル (2)発表者（名前・所属） (3)概要（200字程度）
3. 申込締切日 令和3年10月13日（水）
4. 原稿締切日 令和3年11月6日（土）

8. 共 催(予定) 情報コミュニケーション学会情報教育特別委員会
教育システム情報学会関西支部
日本情報科教育学会近畿・北陸支部
兵庫県高等学校教育研究会情報部会
大阪府高等学校情報教育研究会
情報教育学研究会(IEC)
氷上情報教育研究会
Logo に学ぶ会 Neo

9. 後 援(予定) 兵庫県教育委員会 尼崎市教育委員会 園田学園女子大学

◎ お問い合わせ先：情報教育合同研究会受付（園田学園女子大学情報教育センター 垣東）

jkgk21@sonoda-u.ac.jp

関西支部ウェブサイトでも後日詳細を掲載する予定です。

本内容は2021/09/20のものであり、状況に応じて変更される場合もあります。

中国支部より活動報告

JSiSE 中国支部研究発表会発表募集

担当者： 教育システム情報学会 中国支部

11月6日(土)に今年度 JSiSE 中国支部研究発表会をオンラインにて開催いたします。たくさんのご発表・ご参加をお待ちしております。今年度は電子情報通信学会教育工学研究会(ET)とジョイントして実施します。

JSiSE 中国支部 2021 年度研究発表会

[期日]: 11月6日(土)

[会場]: オンライン

[実行委員長]: 渡辺 健次 (広島大学)

[発表申込及び原稿提出締切]: 10月23日(土)

- ・発表タイトル
- ・著者(所属), …, 著者(所属)
- ・著者連絡先:

氏名:

電話番号:

メールアドレス:

[原稿執筆要領]

- ・原稿は、学会研究会報告執筆要領(<https://www.jsise.org/society/format.html>)に準拠します。原稿ファイルは、支部研究発表原稿書式をご利用下さい。
- ・原稿は、ページ数を記入せず、Word ファイルと PDF ファイルを下記原稿提出先までお送りください。
- ・発表申込・原稿提出先: 松本 (s.matsumoto.gk@cc.it-hiroshima.ac.jp)

広報からのお知らせ



Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします。また、Facebook アカウントとの連携も行っており、Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので、ぜひご活用（フォロー）ください。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2021年9月26日現在、フォロワー数 258 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・論文・発表募集
- ・本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2021年9月26日現在、いいね 474 件、520 人フォロー



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「第32回教育・学習支援システム若手の会」

日時：2021年10月9日（土）～10月10日（日）

会場：オンライン開催

後援「高校教科「情報」シンポジウム2021」

日時：2021年10月9日（土）

会場：オンライン開催



国際会議のご案内

- 2021年11月開催

The 29th International Conference on Computers in Education (ICCE 2021)

開催期間 : November 22-26, 2021

開催地 : Cyberspace

URL: <https://icce2021.apsce.net/>



会費納入のお願い

会費納入についてのお願いです。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、2021年度会費未納の方はご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。なお、7/13に会費納入のお願いをメールでお送りしましたので、合わせてご確認をお願いします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。

※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2021年7月22日～2021年9月17日)

本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
橋本 賢一	賛助会員からの正会員	南井 孝友	学生会員
平岡 祐亮	賛助会員からの正会員	田中 孝明	正会員
山田 雅敏	正会員	加藤 慎融	学生会員
福田 哲也	学生会員	尹 鵬程	学生会員
高野 泰臣	学生会員 (購読)	森下 夏暉	学生会員
岩佐 英彦	正会員 (購読)	野中 孝昌	正会員
工藤 由美子	正会員	張 曉紅	正会員
株式会社 富士通 ラーニングメディア	賛助会員		

(計 15 名)